

うめナビ

2021.12
Vol.113

匠の技が融合した洋傘



前原光榮商店(台東区三筋、代表取締役・前原慎史・前原誠司、03・3863・4617、<https://shop.maehara.co.jp/>)は、昭和23年創業の三代続く高級洋傘メーカーだ。

同社は、「傘」という字に含まれる4つの「人」は、それぞれ「1.生地を織る」「2.骨を組む」「3.手元を作る」「4.生地を裁断縫製する」の4分野の職人たちを表すと提唱している。それぞれの職人たちの技術を高める事により、同社の傘は成り立っている。

特に生地の裁断縫製に関しては、傘の出来栄を左右する最も重要な技術のひとつだ。高品質の生地・骨・手元を擁しても、傘の裁断縫製次第では美しいフォルムの傘に仕上がらない。



前原光榮商店

そして、この技術を継承するために若い職人候補生を雇用し、社長自らが講師として基礎から技術指導を行う取組みを令和3年10月よりスタートさせた。「職人の技術を高め、商品に付加価値を与え、職人の地位向上を図り、職人になりたいと憧れを持つ人を増やしたい」と前原慎史社長は語る。現在、4名の若き職人が日々技術の向上に励んでいる。

同社のショールームには美しいフォルムの洋傘が並んでいる。ぜひお立ち寄りいただき、手に取って製品をご覧ください。

美しく今を生きる、大人の女性のために「品のある丁寧な暮らし」を提案



フランドル(目黒区大橋、戸田隆行代表取締役、03・5738・8731、<https://www.flandre.ne.jp/>)は、婦人の企画・製造・販売を行っている。肌に触れるからその着心地の良さ、服もアイデンティティの一つだからそのカラーへのこだわり。着用いただく方に寄り添って、長きにわたり日本人女性のための服を真摯に作り続けてきた。

1着の服を作るには、原料・糸・生地・染色・加工・縫製や編みと多くの素材・工程を伴うが、一つひとつが着心地を左右する大切な要素であり、同社はそれに関わる産地や職人と想いを共有し、洋服を作り上げている。

「当社の掲げる『品のある丁寧な暮らし』とは、洋服を通して日常に豊かさを感じていた



だくこと。これからもファッションならではの『品性と着心地』を生み出せる存在でありたい」と戸田代表は語る。

ブランド紹介

スーペリアクローゼット

常に進化し続ける、永遠のスタンダード。時代を超えて愛され、未来を紡いでいくエレガンス。「今」の空気をまとうリアルクローズを提案。

エムマリーエルカセット

演奏家のドレス、演奏会を聴きに行くドレス、様々なハレの日シーンでときめくドレスを提案。

イツウィンターナショナル

至高の着心地、究極の質感へのこだわり。進化するエッセンシャル。日常に寄り添えるベーシックアイテムを展開。

フランドル

うめナビ 送付先業種											合計 250先
	商社 4先	スーパー・小売・百貨店 21先	メーカー 15先	マスコミ・出版 29先	教育(大学・専門学校) 32先	官公庁 34先	ホテル 7先	金融 48先	建設・不動産 13先	システム関連 9先	

※ 本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。

医療用ガーゼにも登録、2022年には独デュッセルドルフでの世界的医療機器の展示会に出展予定

ナファ生活研究所

ナファ生活研究所(渋谷区千駄ヶ谷、相田雅彦代表取締役社長、03・54412・7661、<http://www.nafa-take.com/>)は、竹繊維を用いた商品の製造・卸売・販売業を営んでいる。「竹の繊維で糸を紡ぎ、生地にして、傷にそっと寄り添うガーゼをつくる」との想い、一筋に1999年より開発が始まったのが、竹原料100%のTAKEFU(竹布)という繊維だ。静菌性、消臭性、制電性、吸湿・吸水性、温熱効果に優れ、2001年の第1号商品以来、20年の歳月をかけて約300種の商品を産み出した。

デュッセルドルフで行われるMEDICAという医療機器の展示会への出展を予定している。2006年4月にアメリカのサンタモニカで開催されたLOHAS10以来の海外でのお披露目となる。原料の竹の育成から製品までを生産する繊維業界では世界でも稀な企業といえる。「2001年の抗菌力の発見によりその役目が決まったTAKEFU繊維。20年の熟成の時を経て、いよいよスタートラインに立つ時が近づいている。医療・衛生材料の分野を中心に、衣・食・住において、竹を活用した地球環境改善プロジェクトに着手する時が来た」と相田社長は語る。



ナファ生活研究所本社



相田雅彦代表取締役社長



TAKEFU(竹布)を用いた「うめマスク」

美味しく食事をしながら 身体を内側から元気にする

チーパオマーラタン 七宝麻辣湯



七宝麻辣湯(港区赤坂、石神秀幸代表取締役、03・6807・4990、<https://maratan.com/>)は、中国四川省発祥の薬膳スープ春雨「麻辣湯」の専門店だ。

石神代表は飲食関連のライターの業をしており、世界中の麺料理を食べ歩くうちに、中国や東南アジアで広く食べられている「麻辣湯」と出会った。野菜を中心とした何十種類ものトッピングの中から好きな品を選べるシステム、デトックス効果の高い薬膳スープ、低カロリーの春雨麺等

「美味しく、楽しくて、体に良い」と三拍子揃った料理に感動。2000年当時の日本には1軒も提供する店がなく、日本で初めて麻辣湯専門店をオープンした。同店では鶏や豚を丹念に煮込んだスープに、30種類以上の薬膳スパイスを組み合わせている。薬膳のほとんどは中国で漢方薬として使われており、瘦身



や健胃など様々な効果が期待できる。選べるトッピングは常時50種類以上、スープの辛さもお客様の好みに合わせて無制限に選べ、風味や食感を変化させる味変アイテムも組み合わせればバリエーションは無量大だ。現在は東京・大阪に9店舗を展開している。都内店舗では現金不可の完全キャッシュレス会計に切り替え、テイクアウト販売も行っている。ぜひご来店いただき、自分好みの麻辣湯を見つけてみてください。

生活の一部にカジュアルにお花を Soel(添える)Flower

ソエルフラワー Soel Flower

Soel Flower(世田谷区南烏山、佐藤里美オーナー、03・6770・3431、<https://www.soel.design/>)は、ドライフラワーを専門に取り扱う珍しい花屋だ。

京王線千歳烏山駅から徒歩2分に立地し、ビルの2階にあるため隠れ家風の店舗となっている。花市場から直接生花を仕入れ、佐藤オーナーが自ら店舗で干してドライフラワーにしている。店内にはギフトや自宅用のリースや花束など、ドライフラワーで作られた多くの商品が並んでいる。ハンドメイド作品を作る人に向けて花のバラ売りもしており、来る人を飽きさせない。

販売の他に、月に数回、季節の花を使ったフラワーレッスンを行っており、クリスマスリースや正月のしめ縄飾りは大変人気のレッスンとなっている。元々は生花店で働いていた佐藤オーナーが「あまり自宅にいられない人や花の手入れが苦手な人にも気軽に花を楽しんでもらいたい」と手

入れの必要のないドライフラワーを専門として、生活の一部にカジュアルにお花を取

